

コロナ禍のもとで の大学院生の実態

大学フォーラム オンラインシンポジウム

2020年10月3日

全国大学院生協議会 2020年度議長 梅垣緑（一橋D1）

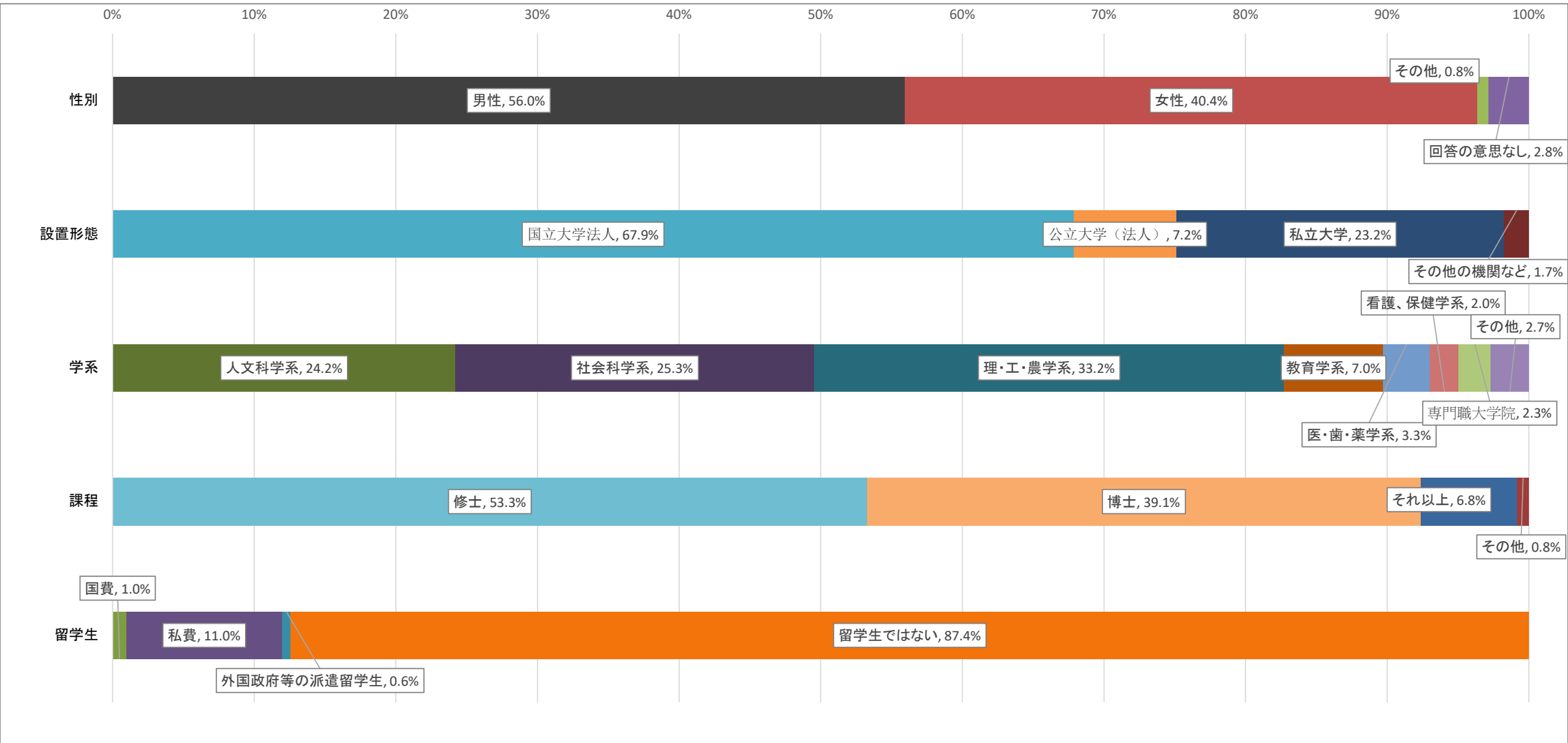
全国大学院生協議会とは

- 全国の大学の自治会・協議会の連合組織
- 大学院生の地位向上と権利の擁護、研究・生活の向上を目的とする

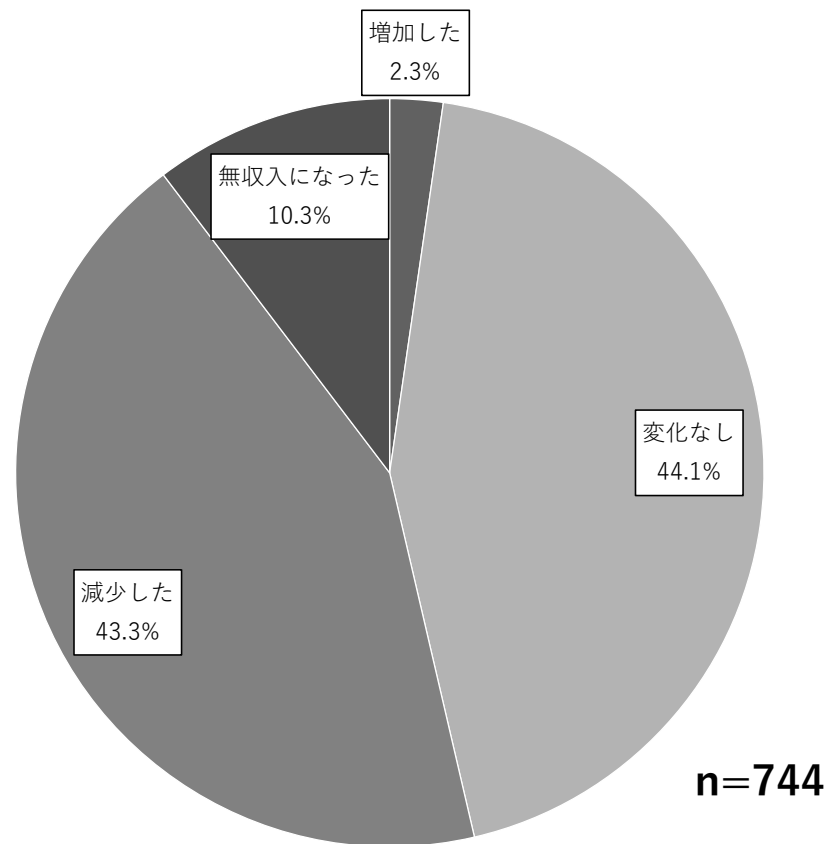
アンケート調査の概要

- 「大学院生の研究・生活実態に関するアンケート調査」
- 2004年から実施し今年で17回目、コロナ禍に関する設問を追加
- アンケート実施期間 2020年6月1日～8月31日
- 方法 Webフォーム 対象は全国の大学院生
- 全国133大学747名から回答を得た

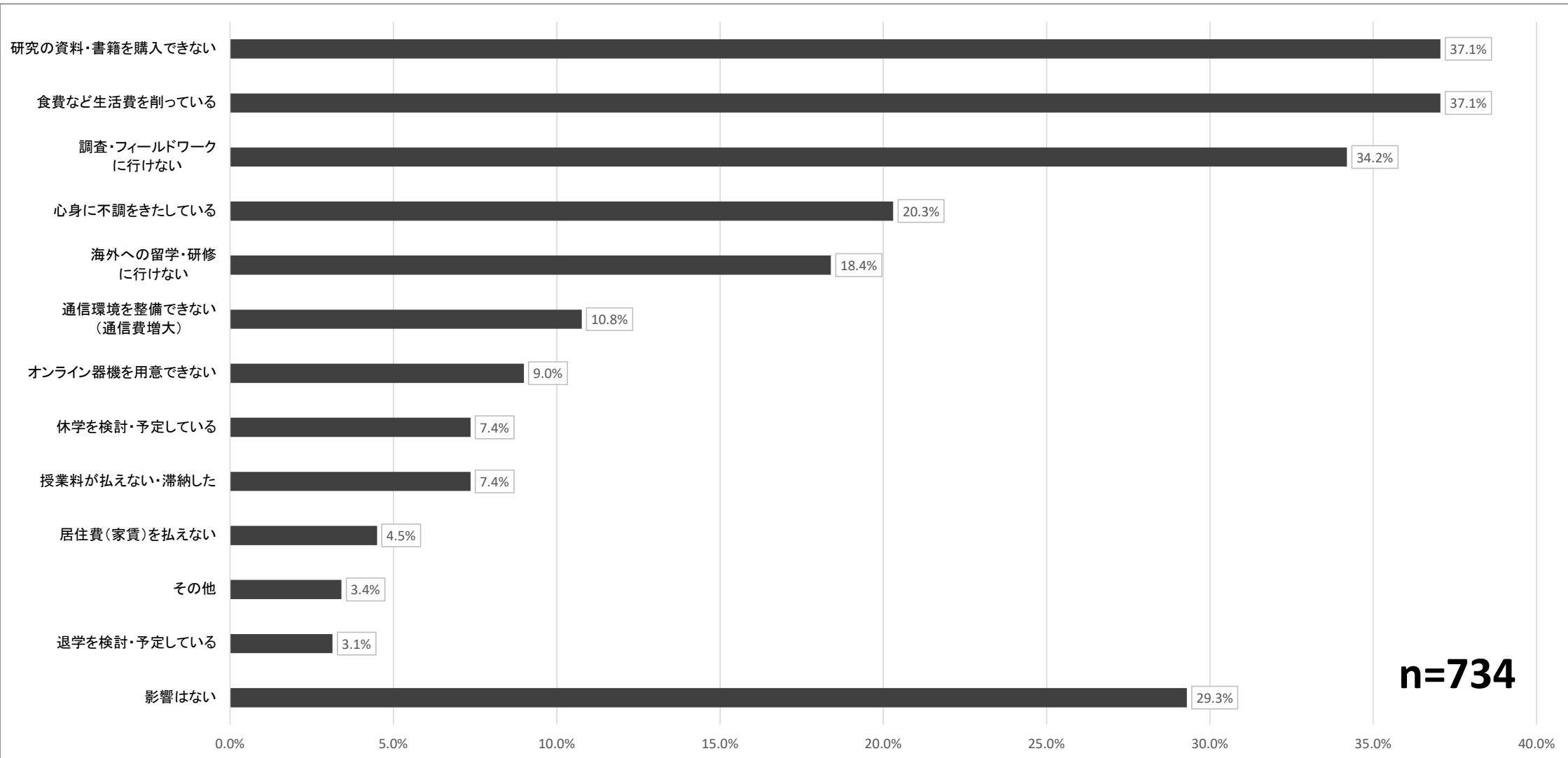
回答者の属性



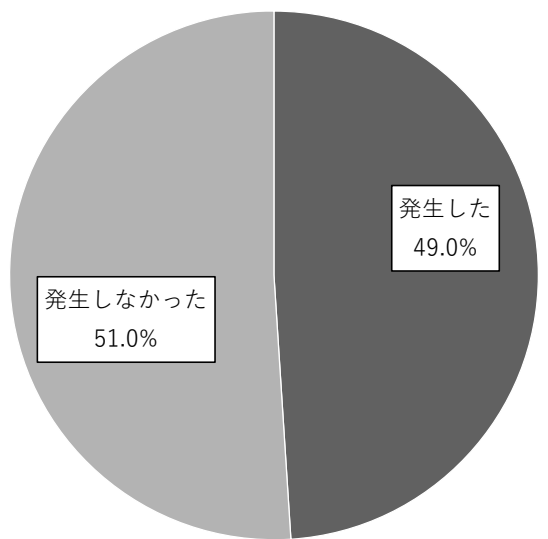
コロナ禍による収入の変化



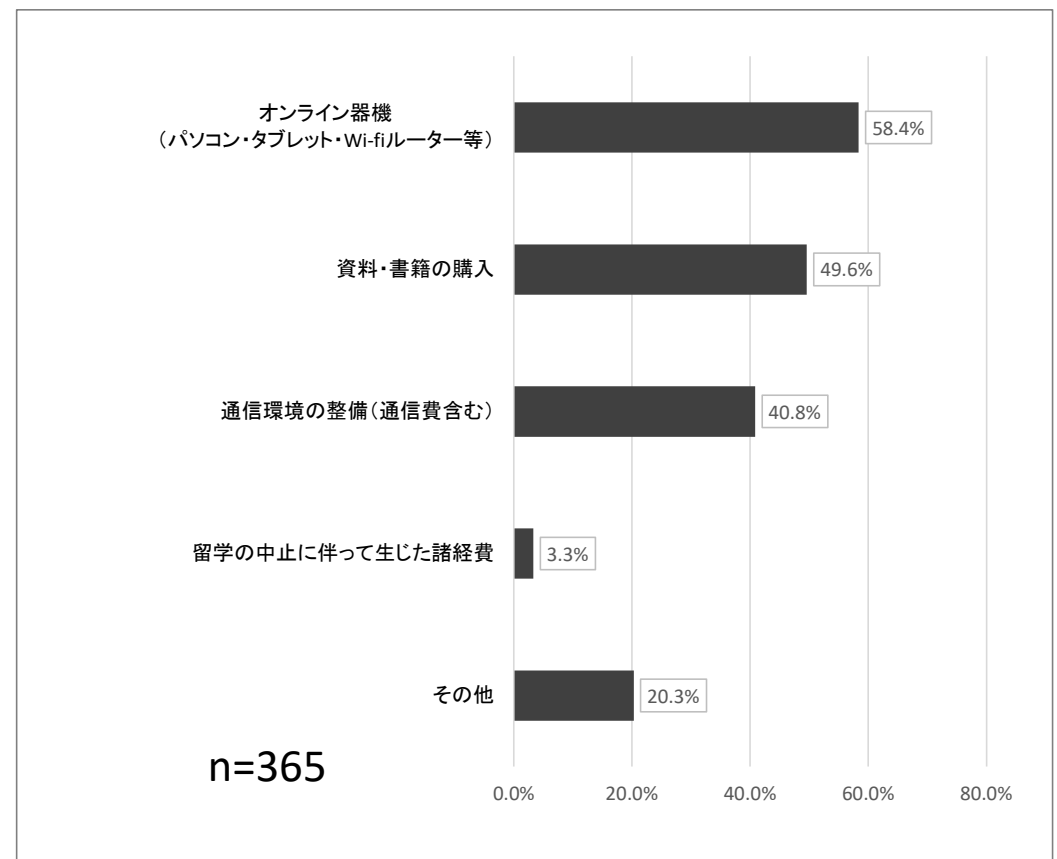
収入の減少が研究・生活に与えた影響



コロナ禍による追加支出とその使途

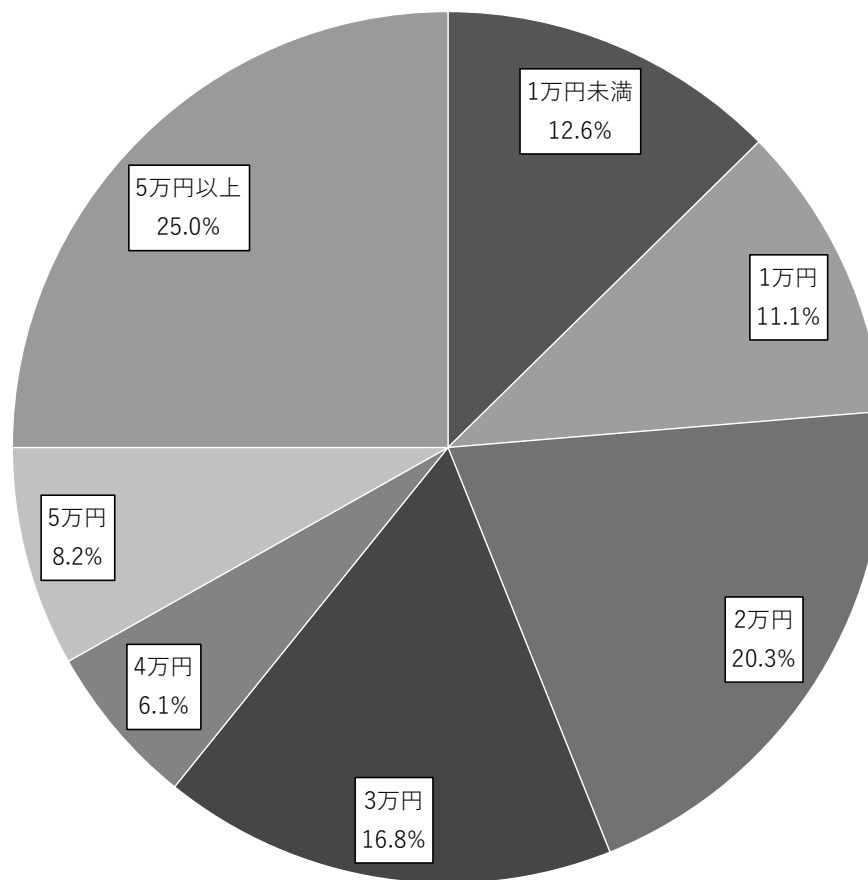


n=743



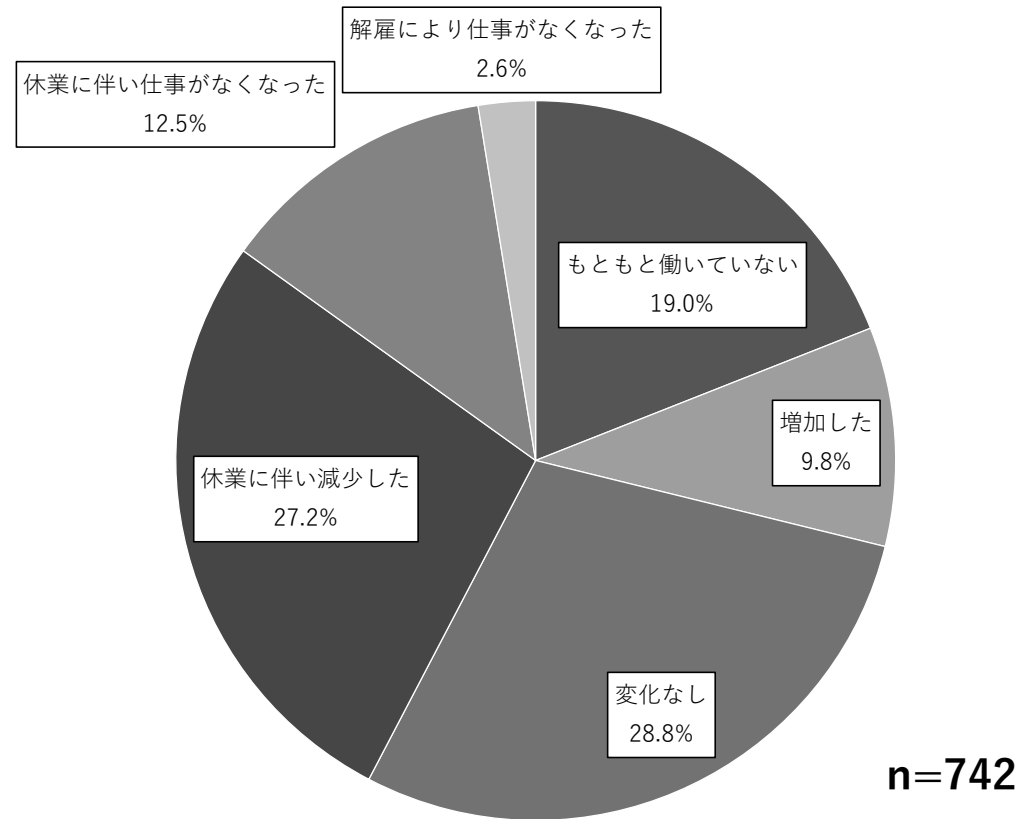
n=365

コロナ禍による追加支出額

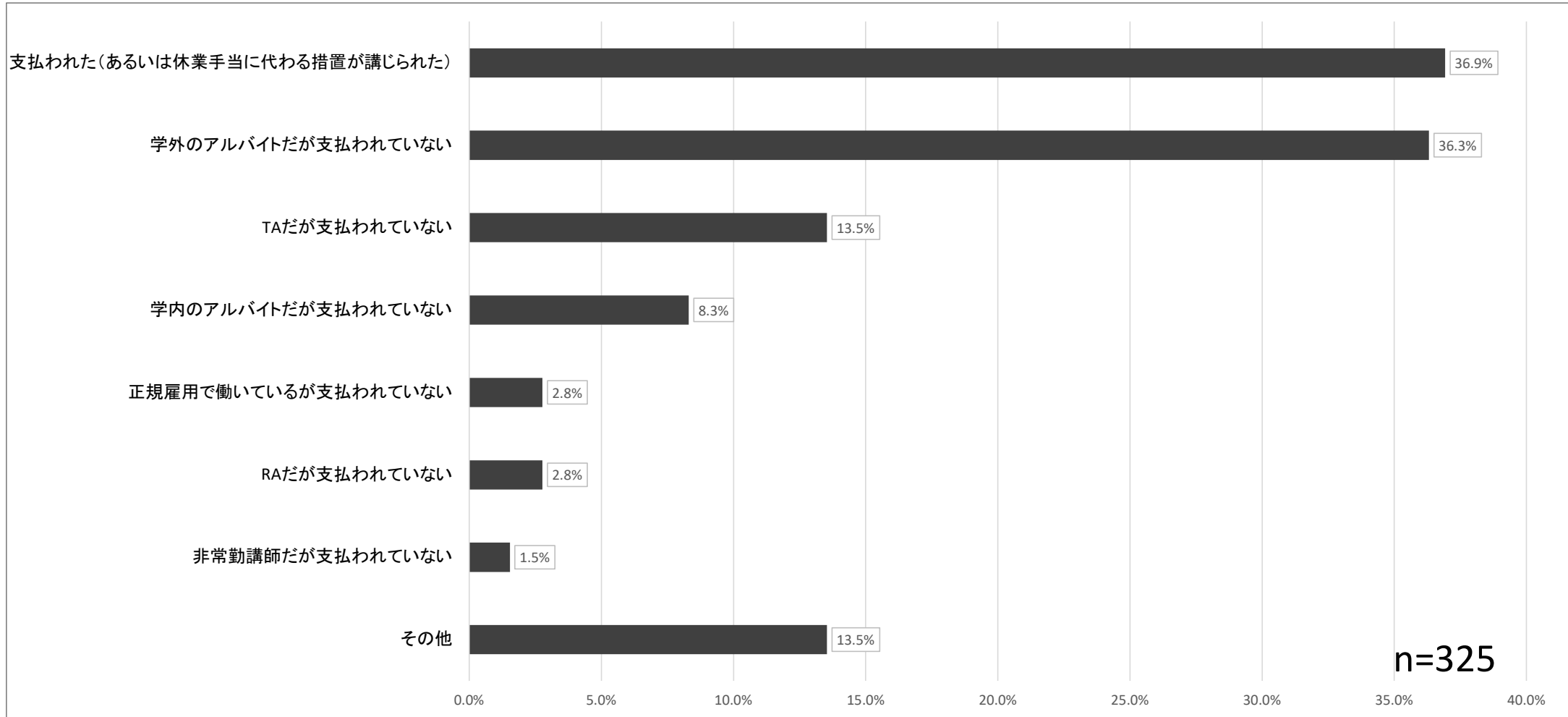


n=742

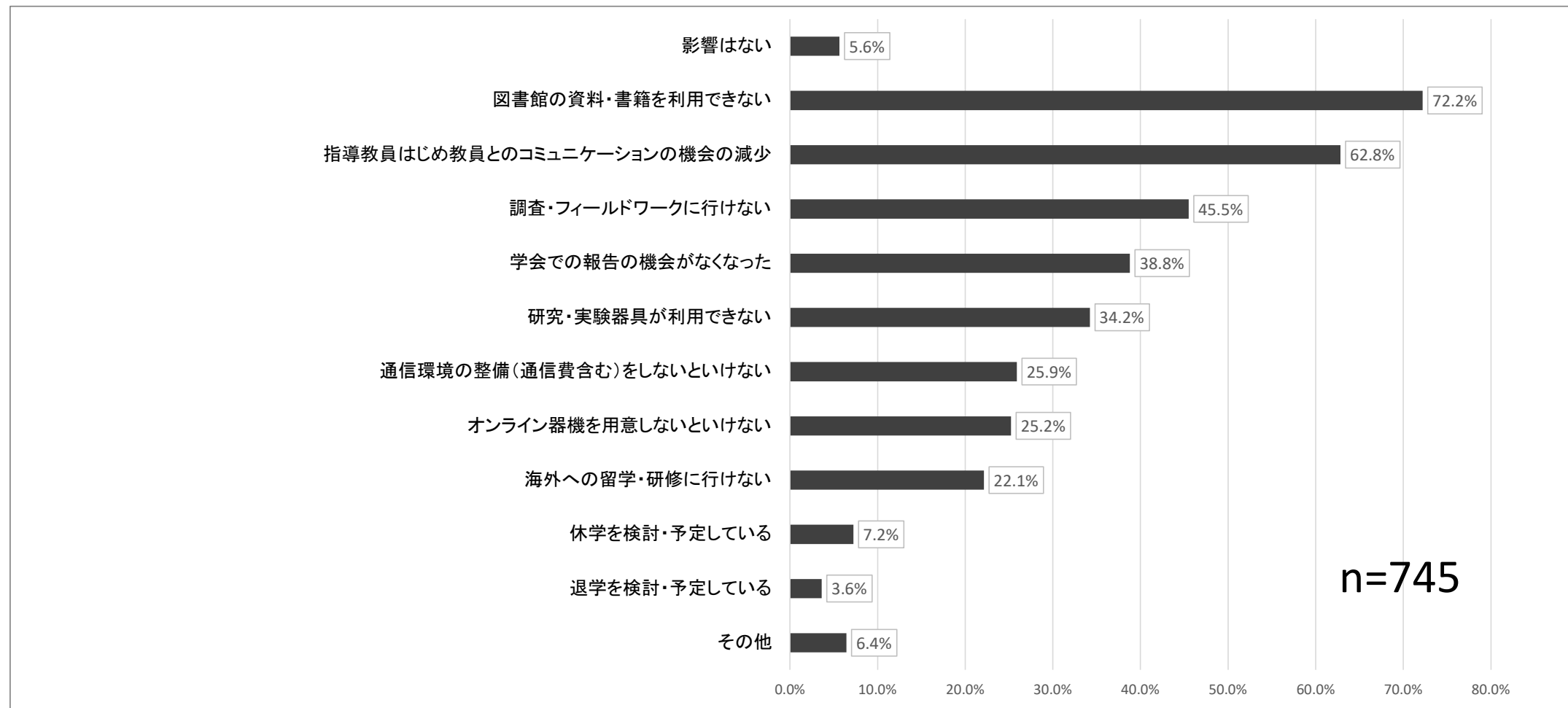
コロナ禍による労働状況の変化



休業補償の実態



大学施設へのアクセスの困難の研究への影響

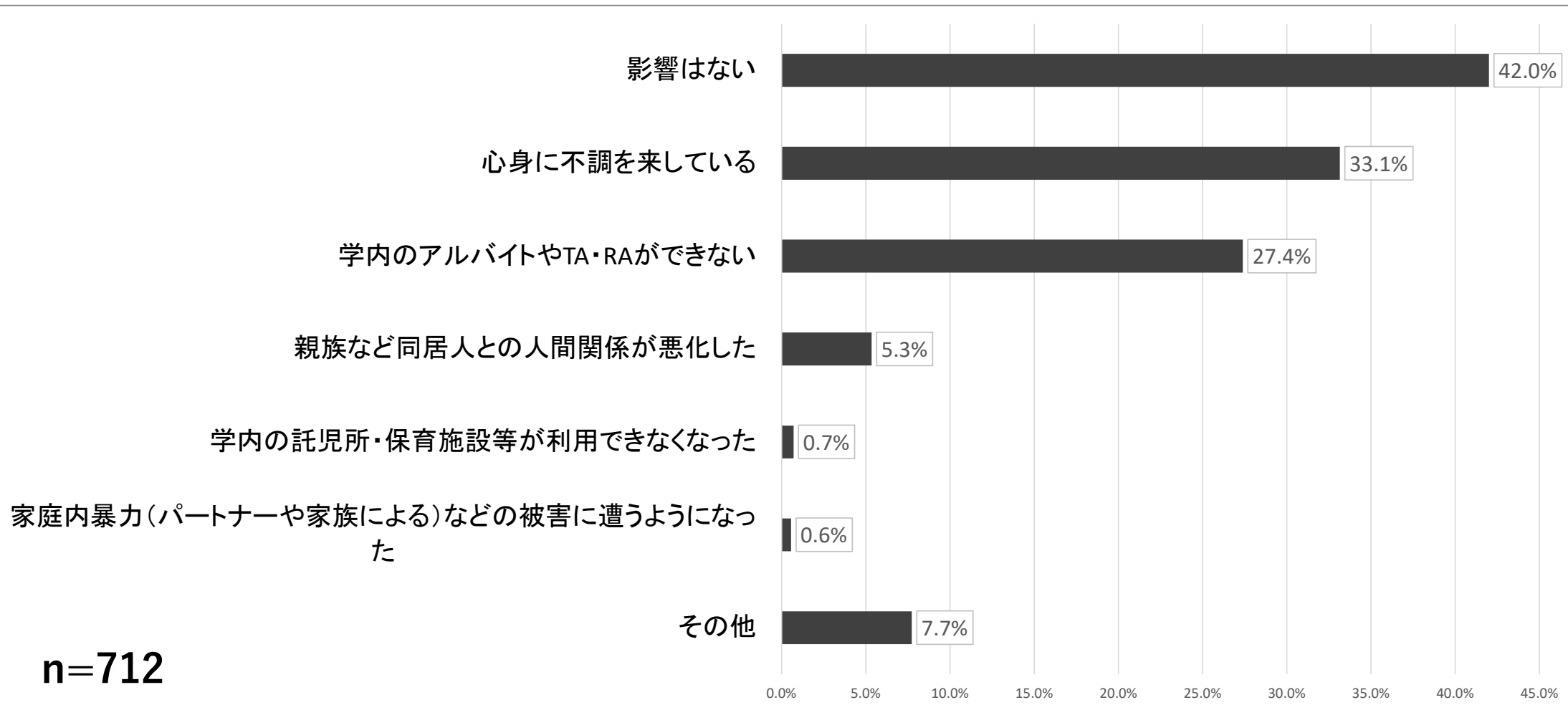


アクセス困難の研究への影響（学系別）

	影響はない	図書館の資料・書籍を利用できない	オンライン機器（パソコン・タブレット・Wi-fiルーター等）を用意しないといけない	通信環境の整備（通信費含む）をしないといけない	研究・実験器具が利用できない	調査・フィールドワークに行けない	海外への留学・研修に行けない	指導教員ははじめ教員とのコミュニケーションの機会が減少した	学会での報告の機会がなくなった	休学を検討・予定している	退学を検討・予定している	その他
人文科学系	4.4%	86.2%	28.2%	27.1%	18.8%	50.8%	26.0%	70.7%	37.6%	12.7%	5.0%	8.8%
社会科学系	4.3%	85.1%	27.7%	25.0%	14.9%	51.6%	22.3%	56.9%	26.1%	5.9%	3.2%	7.4%
理・工・農学系	6.0%	52.0%	23.8%	24.6%	59.3%	36.7%	21.4%	60.9%	50.8%	4.4%	4.0%	3.6%
教育学系	5.9%	80.4%	21.6%	25.5%	33.3%	51.0%	15.7%	74.5%	29.4%	2.0%	0.0%	7.8%
医・歯・薬学系	28.0%	52.0%	12.0%	24.0%	40.0%	28.0%	20.0%	36.0%	36.0%	4.0%	0.0%	0.0%
看護、保健学系	6.7%	60.0%	20.0%	26.7%	40.0%	60.0%	26.7%	66.7%	66.7%	13.3%	6.7%	13.3%
専門職大学院	0.0%	94.1%	29.4%	41.2%	17.6%	35.3%	5.9%	64.7%	5.9%	11.8%	5.9%	11.8%
その他	0.0%	70.0%	20.0%	30.0%	50.0%	55.0%	25.0%	70.0%	55.0%	15.0%	0.0%	5.0%
全体	5.6%	72.2%	25.2%	25.9%	34.2%	45.5%	22.1%	62.8%	38.8%	7.2%	3.6%	6.4%

n=745

大学施設へのアクセス困難の生活への影響

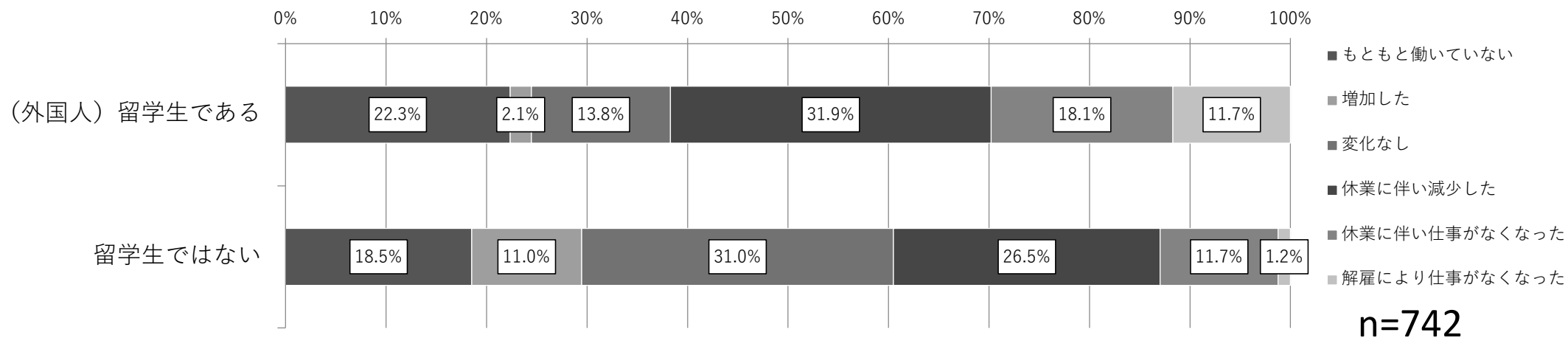
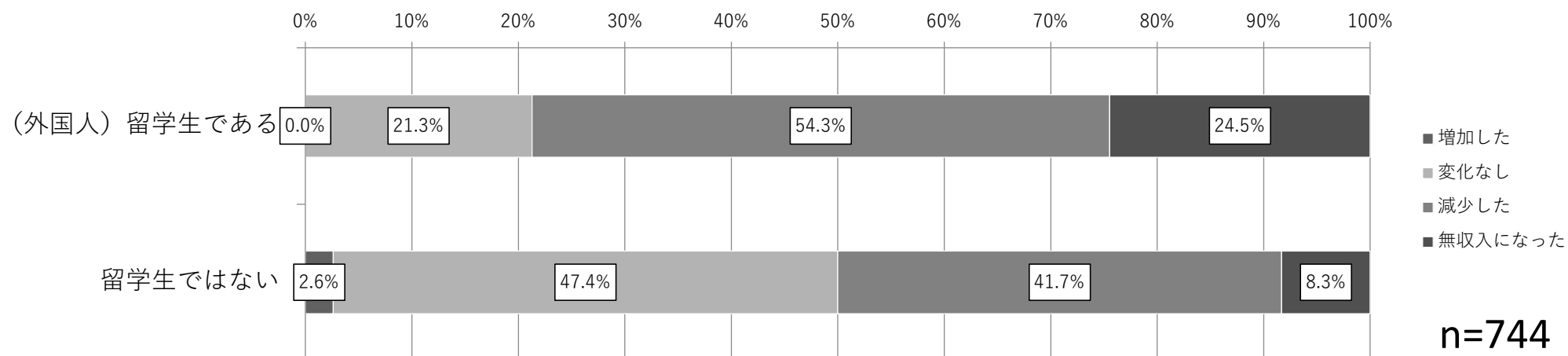


アクセス困難の生活への影響（性別ごと）

	男性	女性	その他	回答の意 思なし
影響はない	58.9%	40.1%	0.3%	0.7%
学内のアルバイトやTA・RAができない	57.4%	40.5%	0.5%	1.5%
学内の託児所・保育施設等が利用できなくなった	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%
親族など同居人との人間関係が悪化した	42.1%	44.7%	0.0%	13.2%
家庭内暴力などの被害に遭うようになった	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%
心身に不調を来している	53.8%	39.4%	1.7%	5.1%
その他	45.5%	49.1%	0.0%	5.5%
全体	56.5%	40.0%	0.8%	2.7%

n=712

留学生への影響（収入・労働）

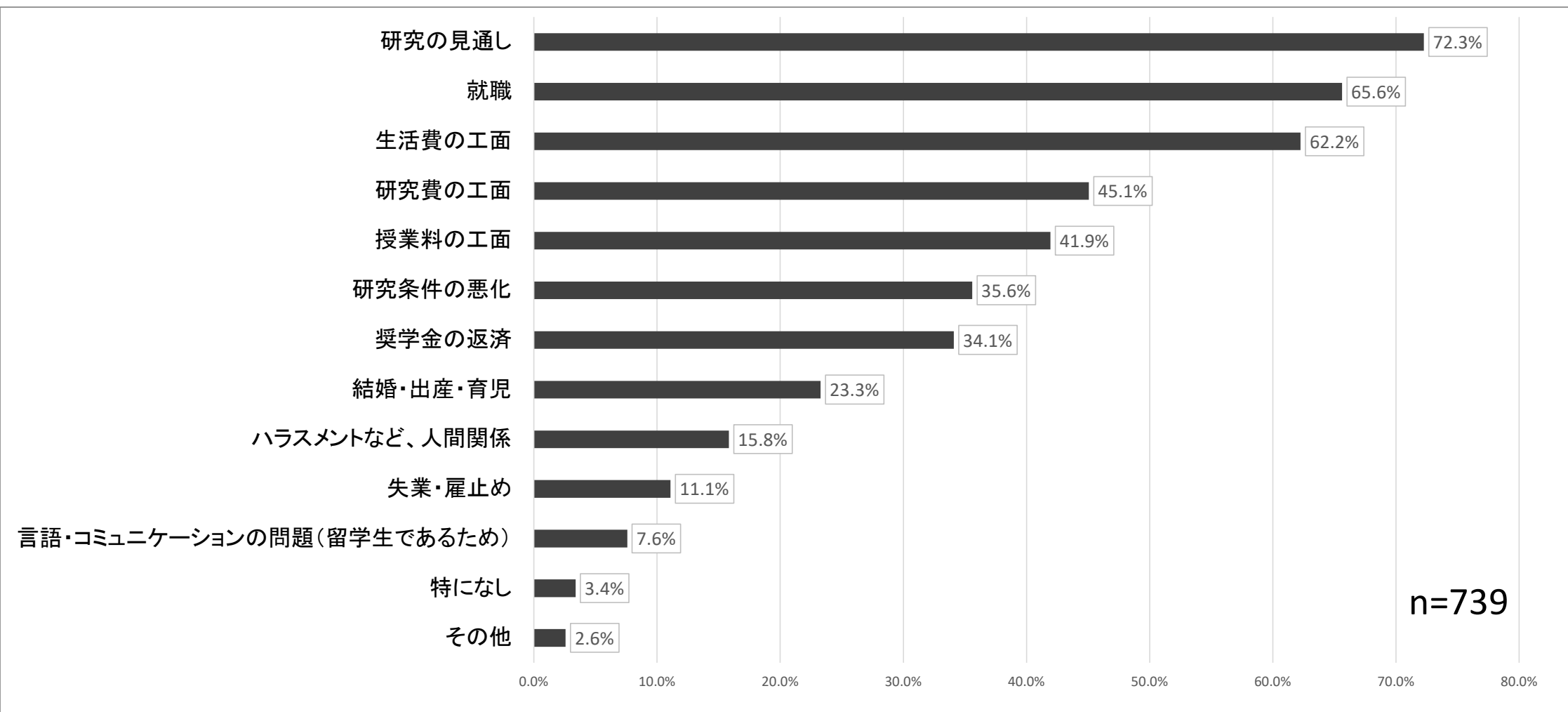


収入減少が留学生に与える影響

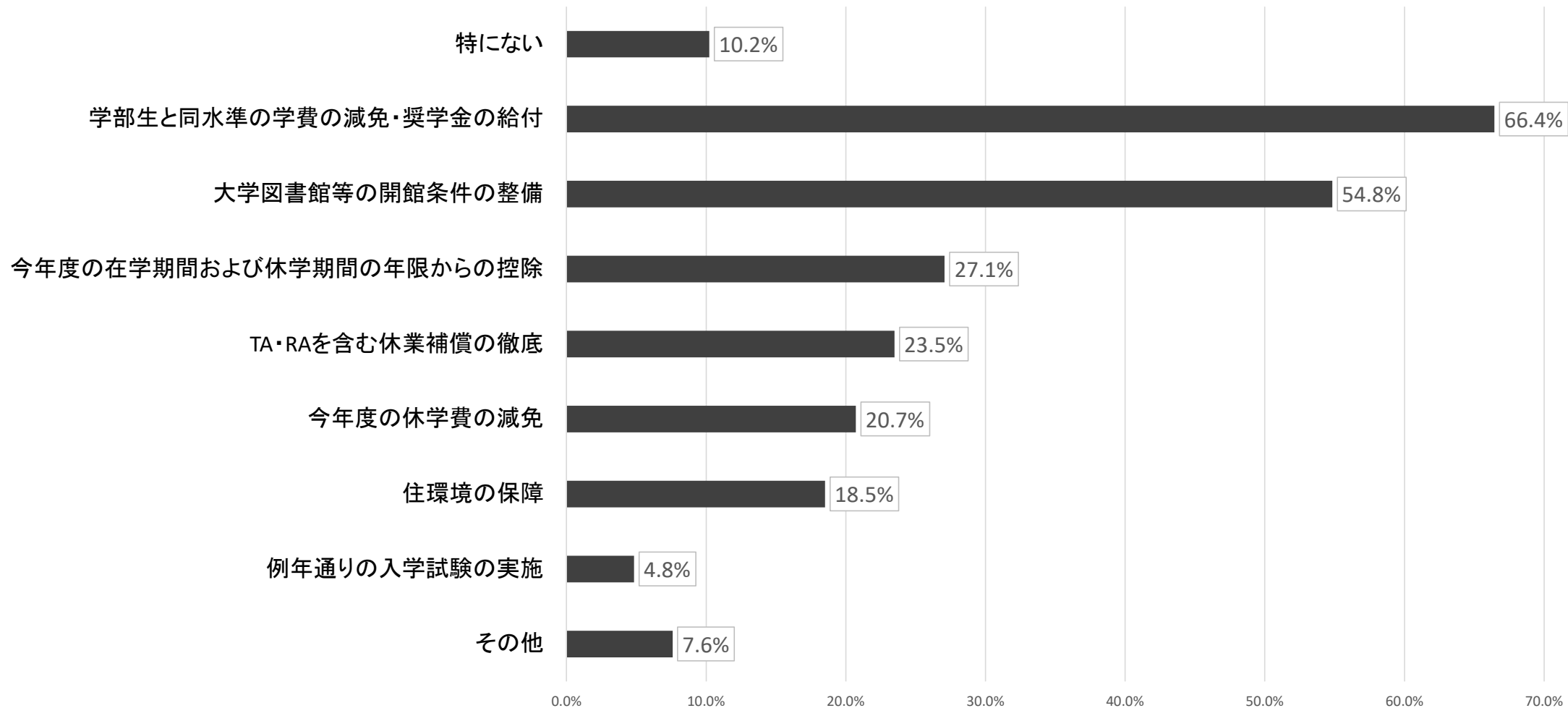
	①影響はない	②食費など生活費を削っている	③居住費（家賃）を払えない	④授業料が払えない・滞納した	⑤研究の資料・書籍を購入できない	⑥オンライン器機を用意できない	⑦通信環境を整備（通信費増大）できない	⑧調査・フィールドワークに行けない	⑨海外への留学・研修に行けない	⑩休学を検討・予定している	⑪退学を検討・予定している	⑫心身に不調をきたしている	⑬その他
（外国人）留学生である	12.8%	59.6%	18.1%	17.0%	50.0%	10.6%	20.2%	43.6%	21.3%	6.4%	1.1%	29.8%	1.1%
留学生ではない	31.7%	33.7%	2.5%	5.9%	35.2%	8.7%	9.4%	32.8%	18.0%	7.5%	3.4%	18.9%	3.7%

n=734

コロナ禍のもとで大学院生が抱える将来への懸念・不安



大学院生が求める施策



アンケートの結果のまとめ

- 大学院生の経済状況はもともと脆弱（アルバイト・奨学金）
→経済面での影響は深刻：生活費、家賃、書籍費、授業料など
- 研究の見通しの悪化から将来不安の増加へ
→学位取得・研究成果発表の遅れが今後のキャリア形成の遅れへ
- 大学はたんなる場所としてではなく、コミュニティとしての研究の場であったが、そうした面は損なわれている
- 相対的に弱い立場の人びと（留学生や女性など）にしわ寄せ
- 要望が強い施策：「学部生と同水準の制度の整備」「大学図書館の開館」「休学を容易にする」